

高松塚古墳壁画修理の課題と今後の対応

- 平成 19 年以降、国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設において、壁画石材の修理を進めてきた。この進捗については、平成 29 年 6 月 30 日に開催した古墳壁画の保存活用に関する検討会（第 22 回）（以下、前回の検討会とする）において報告した（参考資料）。

- 現在、前回の検討会で課題とされた壁画の表面及び漆喰層の状況を把握するため、
 - ① 修理技術者による目視または手術用顕微鏡等を用いた観察と触診等（資料 2-2）
 - ② テラヘルツイメージング（資料 3-1-4）による調査を実施している。

- 今後の展示活用を見据え、壁画石材の移動等に際する安全確保を目標に、必要な箇所において強化処置等を行いたい。

- 今後、漆喰の強化とクリーニング等に、2 年程度の作業を見込んでいる。